

# 海底ケーブル敷設船見学報告書

3ping tea 宮城達也

- ・ 日時  
2018年11月8日14時頃
- ・ 場所  
NTT-WE マリン 長崎事務所

## ケーブル敷設船概要

今回ケーブル敷設船「きずな」を見学した。「きずな」は主に日本国内の海底ケーブルの保守業務を行っている。また、災害時の物資の運搬や携帯電話の基地局になる等の機能を備えている。9月上旬に発生した北海道地震でも災害対応で活躍した。



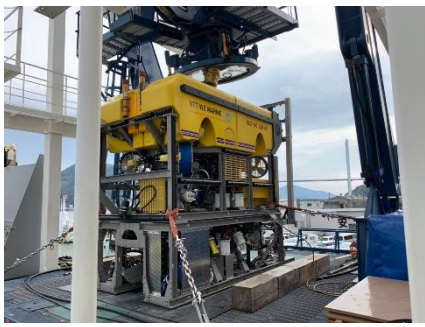
## 敷設船内見学

敷設船内では最新の制御システム、ケーブル敷設に必要な設備を見学した。

敷設には予め定められたルートを正確に航行する必要がある。そのため「きずな」では、DPS というシステムで船の位置を保持する事で正確なケーブル敷設を実現している。



「きずな」を制御しているアジマスプロペラ。360度回転するプロペラをDPSで制御している。



ケーブルの修理を行うきずなに搭載されている無人ロボット「CARBIS-IV」。海底 2000m で活動でき、埋設されているケーブルの探索や切断等の作業を行う。

ケーブルを格納するケーブルタンク。



## 海底線史料館見学

史料館では初期の海底ケーブルやケーブル敷設の歴史を見学した。史料館は明治初期に建設され、保税蔵置所（ケーブルの保管場所）等に使用されていた建物。近代産業遺産として文化遺産に認定されている。右の写真は約 200 年前の敷設船模型。



## 感想

日頃からインターネットを利用しているが、海底ケーブルを意識する機会は少なかった。今回最新鋭の船で数か月かけてケーブルを敷設している事を知り、最新技術と労力に支えられて通信インフラが成り立っていると実感した。敷設船見学は忘れられない経験になった。